

東日本大震災 福島大学の記憶

福島大学は「被災者・被災地域と共に歩む大学」をめざし、東日本大震災・東京電力福島第一原子力発電所事故後から様々な支援活動を行い、今日まで続いています。

多くの皆様に、福島大学の取り組みを知っていただき、福島復興の希望の光を見つめつつ、震災・原発事故の記憶を深く心に刻んでほしいと思い、福島大学震災・復興展示コーナー「東日本大震災福島大学の記憶」を開設しました。



令和元年9月11日に当展示コーナーがオープンしました。オープニングセレモニーでは、当時、学長であった中井勝己氏が「大学として震災・原発事故の様々な記録を残し、学内外に伝える責任がある」と挨拶し、その後、地元の人々や大学関係者が見守る中、中井元学長、三浦浩喜（元理事・副学長（現学長））、塘忠顕附属図書館長、女優の紺野美沙子様、福島大学公式マスコットキャラクター「めばえちゃん」によりテープカットが行われました。

【オープニングセレモニー（令和元年9月11日）】

【シーズン1】 「東日本大震災発災と福島大学避難所」 （令和元年9月～令和2年7月）



発災直後の屋外退避の様子、蔵書等が散乱した図書館や研究室の様子、そして、避難者を受け入れた避難所の移り変わり、避難所運営の中心となった学生ボランティアの奮闘の様子や、避難者の方々との心温まる交流など、当時を思い起こす貴重な場面の数々を、写真パネルを使い紹介しました。



福島大学は、国立大学として初めて避難所を開設し、その当時のダンボールハウスが再現され、布団や日用品などが置かれたほか、避難所に実際に貼られていた掲示物のコピーも掲示され、当時の避難所の様子を、臨場感をもって伝えられるよう工夫しました。



展示コーナーにはメッセージノートが置かれており、展示をご覧になった感想やメッセージなどが記入されています。「強く生きた福島！素晴らしい！」「当時、小学生だったので震災について覚えていなかったが、この展示コーナーで知ることができよかった」とページ一面に様々な感想やメッセージをお寄せいただいています。

【シーズン② 「人間発達文化学類 子ども支援ボランティアの四季」 (令和2年8月～)】



発災直後から学生による子ども支援活動を組織的に行ったのは人間発達文化学類でした。展示コーナーには、
 第1期(平成23年4月～8月)：避難所での支援
 第2期(平成23年9月～平成24年3月)：仮設住宅での支援
 第3期(平成24年4月～)：仮設住宅支援に加え福島大学を会場とした「土曜子どもキャンパス」での支援
 と段階的な子ども支援の様々な場面を紹介しています。



一連の活動の目的は、震災・原発事故で被災した子どもたちの支援であると同時に、実員200名もの学生がセンターとなって、子どもたちの現実をモニタリングしていくことでもありました。さらには、地元大学でしかできないこと、すなわち人間関係が断片化している被災地の子ども達に継続的に接することにより、人間に対する信頼を回復させることでした。



学生によるボランティア活動が世間に認知され始め、寄附金など多くの支援をいただき、それを活用し制作した学生スタッフジャンパーが展示されています。これらを身にまとい、子どもたちのために学生自らが取り組みやイベントを立案・計画し実施してきました。



「希望のヒカリ」プロジェクトとは、福島大学創立70周年記念アクティブ・スチューデント・コンテスト、キャンパスライフ活性化部門で採択された事業であり、本学学生が制作した大小5種類の球体形のイルミネーションが、福島大学S棟前広場で点灯され、学内を彩りました(令和元年8月7日～9日試験点灯、12月～1月キャンパスイルミネーション2019)。

【希望のヒカリ】

イルミネーションは大小様々な種類の球体のオブジェで、ポリカーボネートタンボールの素材が内部のLEDの光を拡散させて複雑に光ります。これらは、東日本大震災直後、子どもたちに希望を与えたいという願いで当時の自然体験実習を受講した大学生らがつくったオブジェが元となっています。



今後の展示予定

約半年を目安にシリーズを入れ替えます。以降、以下のような展示を予定しております

- ・福島大学災害ボランティアセンター
- ・OECD東北スクールと東北復興祭 <環WA> in PARIS
- ・ふくしま未来学とむらの大学
- ・福島大学の放射能対策
- ・うつくしまふくしま未来支援センターの取り組み

・シーズン①と②はYouTubeで動画を公開しています。

<https://www.fukushima-u.ac.jp/shinsai10/post-121.html>



基金の概要

本基金は、福島大学の全学的な事業を支援する「一般基金」と、用途をあらかじめ特定した上でご寄附いただく「特定基金」で構成しております。寄附者の皆様のご期待やご意思に添えるべく有効に活用させていただきます。

一般基金

大学全体の活動を広く支援する基金です。以下の支援事業に活用させていただきます。

- 教育・学生支援事業
- 研究推進事業
- 大学の発展・充実に資する事業

特定基金

寄附者様に用途を特定いただき、その事業を支援する基金です。

- 福島大学しのぶ育英奨学金基金
- 福島大学農学支援基金
- 福島大学経済経営学類創立100周年記念教育支援基金

※特定基金へのご寄附を希望される際は、福島大学 総務課 校友会・基金支援室へご連絡ください。

教育・学生支援事業

地域の再生復興を見据えながら、グローバル化が進展する社会で活躍できる「強い人材」の育成をめざし、学生が存分に勉学に励み、国際性を育み、社会的実践力を身に付けることができるような教育環境を整備することを目的とし、以下の事業を支援します。

- ① 学生支援事業 ② 国際交流事業 ③ 学生教育環境整備事業 ④ その他事業（課外活動や就職活動への支援を実施）



オランダ・ハンザUASフローニンゲン大学
クリスマス休暇前の特別授業



中国・湛江特呈島でのボランティア
(マングローブ林の保全啓発活動)



実践ロシア語演習（ロシア・ハプロフスクにて）

研究推進事業

学術活動、地域交流活動及び学生を含めた国際交流活動などの学術振興の一層の進展を図るために、研究推進に関わる様々な事業へ助成を行っています。

主な助成事業の実績（平成12年度～令和元年度計）
【単位：千円】

助成項目	件数	金額
学術出版・叢書刊行	44	55,457
学会等開催	136	18,169
教員外地研究	5	6,000
地域との学術交流	34	13,638
研究者海外派遣	91	13,227
国内学会参加	78	1,470
海外学会参加	78	6,465
協定校学術交流	28	7,564
(特別) 学生留学・教育	446	24,778
(特別) 事務職員研修	50	7,369
(特別) その他	40	12,722
学術研究支援助成	168	46,930
計	1,167	209,218

大学の発展・充実に資する事業

福島大学の教育・研究・学生サービス等のより一層の充実を図る事を目的とし、社会貢献及び連携事業、学内環境(施設設備を含む)整備等に関する事業に活用いたします。



震災・復興展示コーナー
「東日本大震災 福島大学の記憶」開設

ご協力をお願いする金額

法人・団体様 (一口 1万円)

個人様 (一口 5千円)

※本基金の趣旨をご理解いただき、複数口のご寄附をいただければ幸いです。

ご寄附の方法

- 郵便振替
- 銀行振込
- クレジットカード決済
- コンビニ決済

振込

・福島大学基金パンフレット添付の「払込取扱票」により銀行の窓口でお振込みをお願いします。ご希望の方には、パンフレットをお送りいたしますので、下記お問い合わせ先までメールまたはお電話にてご連絡ください。

・福島大学基金ホームページ内からもお手続きが可能となっておりますので、以下 QR コードをご参照ください。

【お問い合わせ先】

福島大学総務課校友会・基金支援室 〒960-1296 福島県福島市金谷川1番地
TEL : 024-503-4991 / FAX : 024-548-3180 / E-mail: kikin@adb.fukushima-u.ac.jp



復興を見守る樹木の成長



イエローポプラ (S講義棟付近)

米ノースカロライナ大学チャペルヒル校は、戦争直後、原爆で被爆した広島大学に対し樹木や書籍を寄贈しました。福島で原発事故が起こり、「同じ日本で原発事故に見舞われた福島大学が、一日も早く復興することを祈念する。」との思いから、同校を代表するイエローポプラと書籍が平成23年11月に寄贈されました。イエローポプラは寿命が長く何百年も大学を見守ってくれると共に、福島の記憶を風化させないようにしたいという思いが込められています。

約10年が経過した今、イエローポプラはS講義棟2階の高さまで成長し、たくさんの葉をつけ、夏は濃い緑色、秋は緑と黄色のグラデーションと様々な姿を見せてくれます。



(令和2年11月撮影)

けやき (経済経営学類棟付近)



平成23年11月、東日本大震災において甚大な被害を被った福島県及び福島大学の復興を祈念して日立キャピタル社友会から福島県の木でもあるけやきが贈られました。

日立グループには、福島大学の歴代卒業生が300人を超えており、経済経営学類及び経済学部の卒業生が多いことから経済経営学類棟前に植樹することとしました。太く、大きく成長して復興や絆の象徴となってほしいという願いが込められています。

約10年が経過した今、けやきは見上げるほどの高さに成長し経済経営学類のシンボルとなっています。



(令和2年11月撮影)

金木犀としだれ桜 (第2体育館付近)



福島大学の避難所では、平成23年3月16日から4月30日(当初の受入予定は4月23日)までの間に延べ3,161人(大学2,828人、附属小・中学校333人)の方々を受け入れ、教職員・学生ボランティアで避難所の運営にあたりました。避難所の閉鎖にあたり、避難者の方々から学生ボランティアや福島大学へ感謝の気持ちを伝えたいとの申し出があり、平成23年4月13日に金木犀、22日にしだれ桜が植樹されました。

現在は第2体育館脇の敷地へ移植し、学生のサークル活動を見守っています。



(令和2年11月撮影)

編集後記

「2011. 3.11」→「2021. 3.11」そして、その先へ

2011年3月11日、あの日から福島大学は何ができるのか、何をすべきか考え、地域と共に歩んでまいりました。そして、10年間に福島大学が取り組んできた活動の一部を10のエピソードとして、この『共に生きる』で紹介させていただきました。

様々な活動を行うなかで、そこに共通しているものは、やはり“人材の育成”です。原発事故や新型コロナウイルス感染症など、誰も経験したことがないことが発生したときに、活躍できる人材、すなわち「解のない問い」にチャレンジする学生を育成していきます。

福島大学は、私たちのふるさと“福島”で、復興への支援の歩みを止めることなく、一緒に取り組んでまいります。

